

4.平成 16 年度平取ダム環境調査について

4-1 水環境

4-1-1 水質検討について

目的

水質調査等によって得られた最新の知見等を反映した水質検討を実施し、ダム湛水及び運用による貯水池内及び下流河川水質への影響を明らかにするとともに、適正な環境保全措置を講ずることを目的として水質検討を行います。

水質検討の概要

平取ダムにおいては流入河川が複数存在し、ダム貯水池形状に分岐が存在することなどを考慮して一次元多層モデル（通称二次元モデル）を用いて検討を行います。

平取ダム貯水池における水質検討は、計算期間を昭和 63 年～平成 9 年までの 10 年間とし、日計算で行います。貯水池の運用条件は利水計算結果を用い、近傍の気象データを使用します。また、平成 15 年 8 月における集中豪雨による出水を含め、過去の出水時データを用いて L-Q 式を作成し、流入負荷量の設定を行います。

4-1-2 その他の項目について

平取ダム建設時には工事に関連する排水が放流される他、原石山、付け替え道路等による裸地が一時的に増加するため、出水時及び非出水時における濁水負荷の影響を把握しておく必要があります。

また、平取ダム運用に伴い、貯水池内での水質変化に加え、放流水による額平川下流及び二風谷ダムへの影響を把握しておく必要があります。

その他の項目

ダム建設工事中の水質（出水時及び非出水時）
下流河川の水質（二風谷ダムへの影響を含め）